

派遣先所属 岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター
氏 名 黒崎 威晴 (くろさき たけはる)
派遣期間 平成27年4月1日～平成28年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の宮古土木センターは、宮古市、山田町を管轄しており、職員数は、岩手県職員44名、任期付職員14名、他県からの応援職員19名となっています。宮古土木センターでは、河川、港湾及び道路の通常の維持管理に加え、東日本大震災津波によって被災した公共土木施設の復旧・復興に関する業務を行っています。岩手県では、平成26年間からの3年間で本格復興期間としており、今年度はその2年目で大規模な復旧・復興工事が進められています。

担当している業務は、宮古港藤原地区の防潮堤工事で、工事や委託に係る積算・発注、監督、関係機関との調整を行っています。藤原地区は工業地域で、これまで防潮堤はなく、東日本大震災津波で被災しました。そこで、延長約2.1kmにわたって高さ約8mの防潮堤を整備するものです。これまでに140mの区間が完成し、約1,600mの区間について3つの工区に分けて発注し、現在施工中です。残る区間についても関係者等との調整が終了次第発注し、早期の完成を目指します。



宮古港藤原地区



完成した140m区間

防潮堤整備にあたって、一部用地買収が必要な箇所があり、用地交渉の場でいくつかの事業所の方と話しをする機会がありましたが、その際、皆さんから出たのは「安心できるように早く防潮堤を整備して欲しい。」との要望でした。地域の方々に安心と安全を届けられるよう一日も早く工事を完成させなければならないと感じました。

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

県内の沿岸地域は、どこも津波で大きな被害を受けており、家屋等が流されて何もなくなってしまっている地区がたくさんあります。こうした場所では、防潮堤の整備や道路・宅地の嵩上げ等の復旧工事が進められています。現地の状況は、だいぶ工事は進んできており、宅地等が出来上がっているような場所もありますが、まだこれから工事が行われる場所も少なくありません。市内の公園等には応急仮設住宅も多数存在しており、沿岸地域の全ての人々が元の生活に戻れるようになるには今しばらく時間がかかりそうです。



整備が進む宮古港鎌ヶ崎地区